

取組みテーマ ③

地域の子育て支援ネットワークづくり

みんなで子育て親育て

地域で育つ地域の子ども推進事業
(天王寺区)

マンション建設の増加や核家族化が進む中、近隣との付き合いや交流の場も少なく、親子だけで孤立しがちで、母親のストレスが高まり、児童虐待という悲惨な状態も懸念されるようになってきました。そのような中、天王寺区でも子育て支援サークルの立ち上げに取り組むことになり、平成13年2月を皮切りに、平成15年9月までの2年7ヶ月の間に区内全域9地区での立ち上げをおこないました。

子育て支援サークルは地域を中心としておこなってきましたが、子育て中の人またそれを支えてくれる人が、周りにはもっとたくさんいるのだということを知っていただきたくて、平成15年度に「児童虐待防止 子育て推進大会」を開催し、全地区のサークルを集結させました。



クローズアップ 子どもたちもボランティア活動

平成18年度に天王寺区地域福祉アクションプランが策定されてからは、「天王寺区子育て愛あいフェスティバル」という参加型のイベントとして、子育て支援の機関・団体・子育て支援サークル・地域や小・中学生、高校生、大学生のボランティアが集まり、親と子のふれあい、子育て中の親同士の交流の輪を広げ、地域のみんなで支えあう子育て環境の充実を願って開催しています。

そして、この小学生、中学生、高校生のボランティア活動を礎とし、さらに次代を担う子どもたちの健全な育成につなげるため、小学校5年生から高校生までの子どもたちが、地域での様々な行事や活動に参加し、新たな「学び」と「体験」のなかで地域への愛着心を育むことを目的とした「天王寺区ジュニアクラブ」を設立し、活動しています。

また、子どもを育てるには、その親自身も育っていく必要があるということから、子どものかかわり方など身近なテーマを中心に、就学前の児童がいる子育て世代に対し、「パパママ講座」を開催し、子育ての悩みや不安の軽減を図っています。

一方で、サークルに参加することができず、引きこもったままの人たちをどうすればよいのかという問題があります。そのひとつの手段として、人形劇の公演など参加しやすく、親子で楽しめる内容の「子育て親育ち講座」を開催し、サークルの周知や参加促進をおこなっています。

このように、地域の中、人の輪の中でお互いが支え合い、また、育ち合って子育てしやすい環境づくりと、地域への愛着心を持った次世代を担う青少年の健全育成をめざして事業展開しています。



中央区子育て応援団

『安心して子どもを産み育てることができる街づくり』事業
(中央区)

中央区では近年、マンションが数多く建設され、地域とのつながりが希薄な子育て層が増えています。また、核家族や共働きの増加に見られるように、家庭のあり様が時代の流れとともに変化し、子育て環境は、家族にとって益々厳しいものになりつつあります。このような状況を地域社会全体の課題として受け止め、区民の皆さんが安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりをめざして、平成19年6月に区長を団長とし各種団体の長と地域社協の代表者で構成する『中央区子育て応援団』を結成しました。

平成20年度は、子育て支援への理解を得るとともに支援者のスキルアップのため“子育て支援者養成講座”を開催しました(延べ188人の参加)。秋には地域子育て応援団36人の



協力を得、“親子コンサート”を開催し300人の親子が楽しい音楽で心をリフレッシュすることで、地域とのつながりづくりとなりました。

また、地域子育てサークルの新たな開設や地域会館での子育ての情報提供など、地域と子育て家庭との交流が始まっています。地域の中に顔見知りのおじさんやおばさんがいる。我が子の事を知ってくれている人がいるという事が安心感につながります。地域住民を主体とする子育て支援ネットワーク(地域子育て応援団)をつくることを通して、地域コミュニティの活性化にもつながると期待しています。

つるみ子育て支援まちづくり (鶴見区)

鶴見区は、大規模マンションの建設等により人口増加が続くとともに、大阪市で最も出生率が高く、年少人口が増加傾向で推移していることから、子育て支援が重要な施策上の課題となっています。そこで、19年度、24区で初めて発行した情報冊子「子育てガイドブック(鶴見区版)」(妊娠～就学前)は、個々の子育てにおける拠りどころとして好評を得ています。

そのガイドブックの作成過程において、災害、感染症などの危機管理体制が不十分であることから、被害を最小限に抑えるための施策として、ネットワークを構築し、横断的な情報交換、交流の場が必要であることが分かりました。地域で子育て支援を進めていくためには、区民の知識と経験を活用した取

組みが必要となっていると同時に、特に、子どもを預かる「公立」「私立」の枠を越えた幼稚園、保育所の連携・交流が大切であるとの結論に達しました。

そこで平成20年10月、「鶴見区子ども園ネットワーク」(幼稚園6、保育所15、関係機関6)を立上げ、各施設における「『もしも…!』の時の対策状況調査」について意見交換を行うなど交流を深めています。

